

平成 25 年度決算

可児市の財務書類 4 表

貸借対照表

行政コスト計算書

純資産変動計算書

資金収支計算書



可 児 市

目 次

1	はじめに	1
2	可児市の財政状況（普通会計財務書類の概要）	3
3	普通会計財務書類	4
	(1) 普通会計財務書類作成基準	4
	(2) 貸借対照表	5
	(3) 行政コスト計算書	11
	(4) 純資産変動計算書	13
	(5) 資金収支計算書	15
4	普通会計財務書類に基づく財務分析	17
	(1) 貸借対照表の経年比較	17
	(2) 市民一人当たりの貸借対照表	18
	(3) 貸借対照表の他都市比較	18
	(4) 社会資本形成の世代間負担率	20
	(5) 歳入総額対資産比率	21
	(6) 資産老朽化比率	21
	(7) 行政コスト計算書の経年比較	22
	(8) 市民一人当たりの行政コスト計算書	23
	(9) 行政コスト計算書の他都市比較	24
	(10) 受益者負担比率	25
	(11) 行政コスト対公共資産比率	26
	(12) 行政コスト対税収等比率	26
	(13) プライマリーバランス（基礎的財政収支）	27
5	連結財務書類	28
	(1) 連結財務書類作成基準	28
	(2) 連結貸借対照表	31
	(3) 連結行政コスト計算書	36
	(4) 連結純資産変動計算書	40
	(5) 連結資金収支計算書	42

1. はじめに

国や地方自治体の公会計制度は、現金の収支の管理を重視した単式簿記・現金主義会計が採用されていますが、予算がどのように使われたかを明確に表示できる反面、過去から積み上げてきた資産や債務などのストック情報が把握できない点や、減価償却や引当金などの概念がないなど、財政状況の情報が不足していると指摘されてきました。

このため、旧自治省（現在の総務省）は、平成12年に地方財政状況調査（決算統計調査）データを活用したバランスシート（貸借対照表）と行政コスト計算書の作成手法を提唱し、いわゆる「総務省方式」による財務書類が全国的に普及し、本市においても平成13年度（平成12年度決算）から作成・公表に取り組みました。

その後、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年6月2日法律第47号）によって、地方公共団体における「資産・債務改革」の必要性が明確にされました。

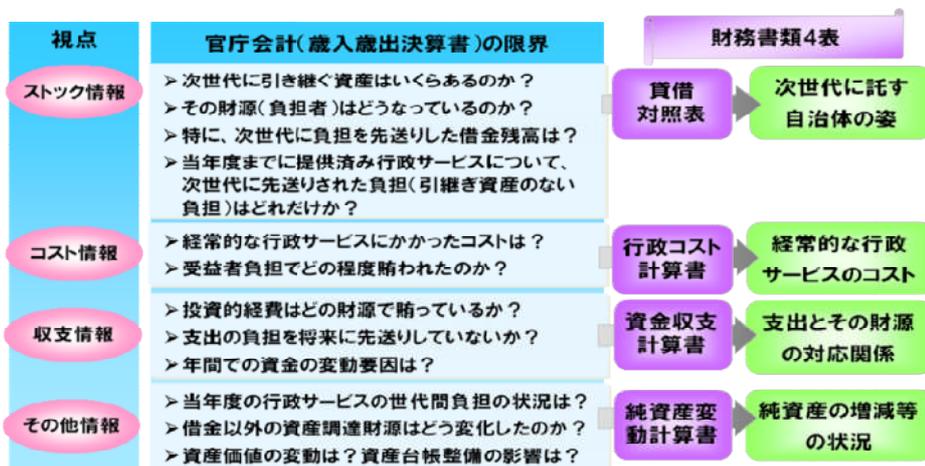
また、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」（平成18年8月総務省事務次官通知）において、普通会計及び公営企業や第三セクター等も含む連結ベースで、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4表を作成し、資産・債務に関する情報開示と適正な管理の推進、未利用財産の売却促進や資産の有効活用等を図ることとされました。

これらを受けて、自らの財政状況を的確に把握し、市民の皆様により詳しく、多角的に分かりやすい形で財政状況をお知らせするために、平成20年度から総務省の「新地方公会計制度研究会報告書」及び「新地方公会計制度実務研究会報告書」で示された作成モデルのうち「総務省方式改訂モデル」を用いて、普通会計及び連結財務書類4表を作成しましたので報告します。

【財務書類4表】

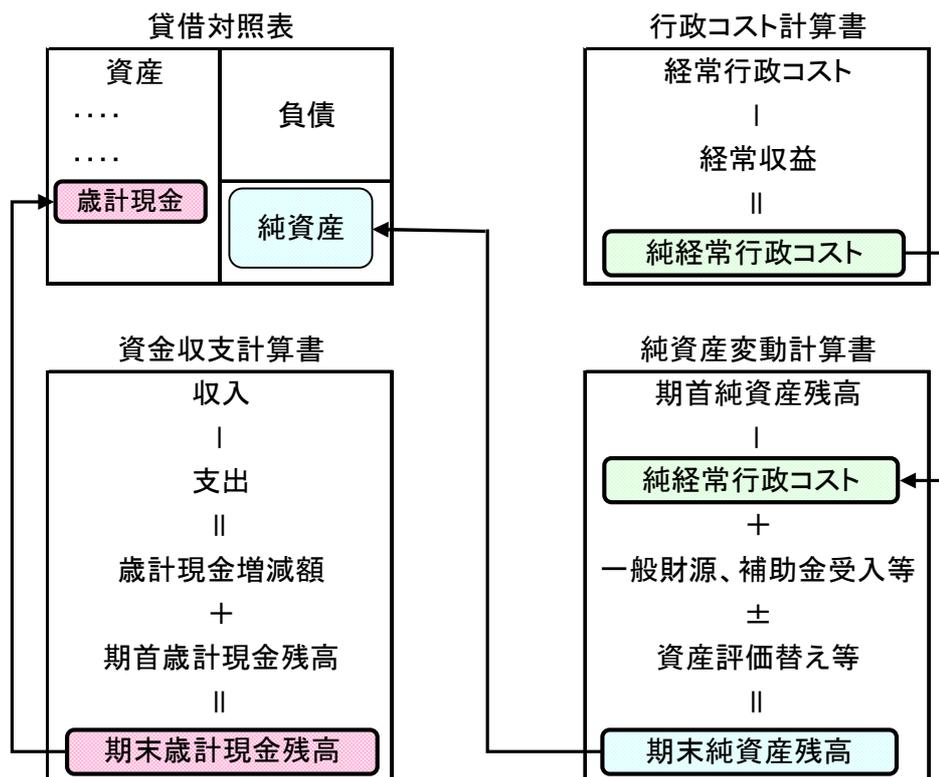
従来から歳入歳出決算書や決算統計に基づいて経常収支比率等の指標を算定し、財務分析を行ってきました。しかし、これらの指標は現金の動きを中心としたフロー情報に基づくもので、市が整備してきた資産や借入金などの負債といったストック情報が含まれていません。

新地方公会計制度による財務書類4表では、企業会計に準じた発生主義による財務書類を作成することにより、保有する資産及び負債のストック情報や行政サービス提供のために発生したコスト情報を示し、現金主義によるこれまでの公会計を補う財務情報の提供と分析が可能となります。



出典：「新地方公会計制度の徹底解説」ぎょうせい

【財務書類4表の関係】



貸借対照表の純資産の変動を表したものが、純資産変動計算書になります。

行政コスト計算書は純資産変動計算書における純経常行政コストの詳細な内訳明細になります。

また、資金収支計算書は歳計現金の動きを表す計算書になりますので、期末歳計現金残高は貸借対照表の歳計現金と一致しています。

2. 可児市の財政状況（普通会計財務書類の概要）

平成25年度 可児市財務書類の概要（普通会計）

～財務書類から分かる 可児市の財政状況～

算出基礎

①人口は平成26年1月1日現在住民基本台帳人口100,815人

②県内他市（岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、各務原市）、類似団体（土岐市、関市、埼玉県秩父市、石川県加賀市、新潟県柏崎市、長野県岡谷市、兵庫県高砂市、山口県下松市）の平成24年度決算による財務書類を参考としています。

①市民一人当たりの資産と負債

資産 …… **169万8千円**（県内他市、類似団体平均 196万4千円）
負債 …… **22万4千円**（ “ “ 46万円）

県内他市等平均と比べると、資産も負債も少ないですが、特に負債が少ないことが分かります。資産に対する負債の割合も、県内他市等平均が23.4%に対し、可児市は13.2%となります。

②道路や公園、学校など公共資産整備に対する、これまでの世代による負担率（純資産合計÷公共資産合計×100）と 将来の世代による負担率（地方債残高÷公共資産合計×100）

これまでの世代の負担率……**97.5%**（人口規模が同程度の類似団体の状況 高砂市 85.1%、関市 88.7%）
将来世代の負担率……**11.2%**（ “ “ “ 19.3%、 “ “ 20.3%）

道路や公園、学校など、社会資本の整備の結果を示す公共資産のうち、純資産による整備割合と負債による整備割合をみることによって、これまでの世代と将来の世代の負担割合をみる事ができます。平均的な値は、これまでの世代の負担率は50～90%、将来世代の負担率は15～40%でありますし、類似団体と比較しても将来世代の割合が低いことから、健全な財政状況と言えます。

③市民一人当たりの行政コスト **24万4千円**（県内他市、類似団体平均 32万8千円）

資産形成に結びつかない1年間の行政サービスを提供するために、市民一人当たりのコストが24万4千円となり、施設使用料などの受益者負担額として9千円を収入し、差額分を地方税や地方交付税といった一般財源で賄っています。県内他市等平均と比べると、低コストでサービスが提供されています。

貸借対照表

市が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総括的に対照表示した一覧表です。資産の合計額と、負債・純資産の合計額とが一致し、バランスがとれている表であることから「バランスシート」とも呼ばれています。

資産	1,712 億円
市が所有し、行政サービスに利用されている土地、建物、預金など	
【内訳】	
公共資産	1,524 億円
（道路、学校、庁舎など）	
投資等	100 億円
（出資金、貸付金、長期延滞債権など）	
流動資産	88 億円
（現金・預金、市税未収金など）	
うち歳計現金	19 億円

負債	225 億円
借入金（地方債）や将来の職員の退職金など、将来世代の負担となる債務です。	
【内訳】	
固定負債	203 億円
流動負債	22 億円

純資産	1,487 億円
国や県の補助金やこれまでの世代が税金等で負担してきたもの	
計	1,712 億円

資金収支計算書

歳計現金（＝資金）の出入り情報を3つに区分して表し、1年間の行政活動の収入・支出の実態を反映させたものです。

期首資金残高	20 億円
当年度増減額	△1 億円
【内訳】	
経常的収支	59 億円
公共資産整備収支	△15 億円
投資・財務的収支	△45 億円
期末資金残高	19 億円

純資産変動計算書

貸借対照表における純資産が1年間でどのように変動したかを表したものです。

期首純資産残高	1,479 億円
当年度増減額	8 億円
【内訳】	
純経常行政コスト	△237 億円
一般財源（税金等）	191 億円
その他	54 億円
期末純資産残高	1,487 億円

行政コスト計算書

1年間の行政活動のうち、人的サービスや給付サービスといった資産形成に結びつかない行政サービスを提供するために要した経費（経常行政コスト）とその行政サービスを提供した結果得られた受益者負担（経常収益）を対比したものです。

経常行政コスト	246 億円
【内訳】	
人にかかるコスト	32 億円
（職員給与、退職手当など）	
物にかかるコスト	81 億円
（委託料、修繕費、減価償却など）	
移転支出的コスト	130 億円
（社会保障費、補助金、繰出金など）	
その他のコスト	3 億円
（地方債の利子など）	

経常収益	9 億円
施設の利用料や保育料といった行政サービスの利用による受益者負担	

純経常行政コスト	237 億円
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。	

以降のページに、普通会計財務書類の詳細、連結財務書類を記載しています。

3. 普通会計財務書類

(1) 普通会計財務書類作成基準

①財務書類の作成基礎

貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書については、「総務省方式改訂モデル」に則って作成しています。

②対象会計範囲

普通会計（一般会計、自家用工業用水道事業、可児駅東土地区画整理事業の各特別会計）を対象としています。

※平成24年度まで普通会計に含まれていた飲料水供給事業特別会計は、平成24年度末をもって水道事業会計に統合されました。

普通会計 … 地方公共団体ごとに各会計の範囲が異なっている等の理由から財政比較や統一的な掌握が困難なため、地方財政状況調査において統一的に用いられる会計区分であり、地方自治法等の法律適用を受けているものではありません。普通会計は、一般会計及び特別会計のうち①公営企業会計 ②収益事業会計等の事業会計 ③地方公営企業法の全部又は一部を適用している事業会計に含まれないものを合算した会計区分です。

③対象年度

対象年度は平成25年度で、平成26年3月31日を作成基準日としています。なお、出納整理期間における出納については、基準日までに終了したものとして処理しています。

④作成基礎データ

昭和44年度以降の決算統計の数値及び歳入歳出決算書を基礎として作成しています。有形固定資産については、固定資産台帳を基礎として資産計上しています。

⑤減価償却

土地以外の有形固定資産については減価償却を行い、その方法は、総務省の「新地方公会計制度実務研究会報告書」で示された耐用年数による残存価格ゼロの定額法とします。

【耐用年数表】

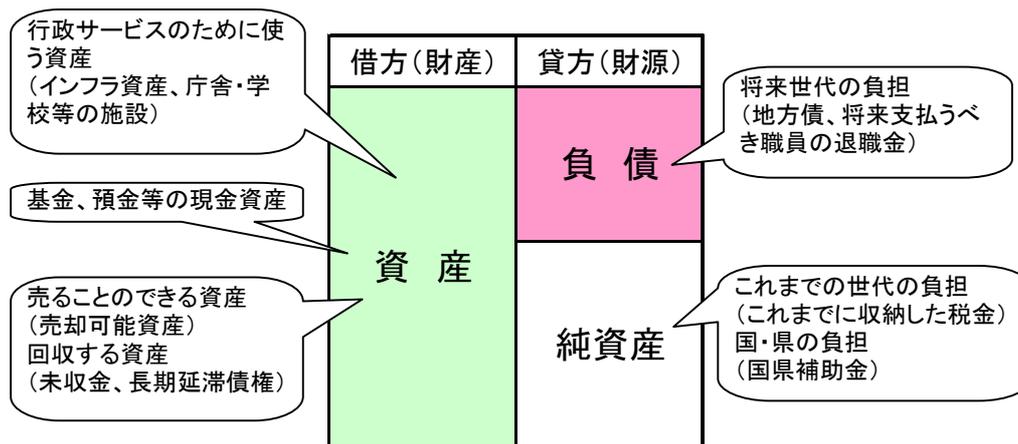
決算統計上の区分	耐用年数	決算統計上の区分	耐用年数	決算統計上の区分	耐用年数
総務費		漁港	50	街路	48
庁舎等	50	農業農村整備	20	都市下水路	20
その他	25	海岸保全	30	区画整理	40
民生費		その他	25	公園	40
保育所	30	商工費	25	その他	25
その他	25	土木費		住宅	40
衛生費	25	道路	48	空港	25
労働費	25	橋りょう	60	その他	25
農林水産業費		河川	49	消防費	
造林	25	砂防	50	庁舎	50
林道	48	海岸保全	30	その他	10
治山	30	港湾	49	教育費	50
砂防	50	都市計画		その他	25

(2) 貸借対照表

① 貸借対照表とは

貸借対照表とは、自治体が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総括的に対照表示した一覧表です。また、資産合計額と負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることからバランスシートとも呼ばれています。

<貸借対照表の構成>



「資産」には、(i)道路などのインフラ資産や庁舎・学校などの施設といった自治体が住民サービスを提供するために使用する資産(ii)現在保有する基金、預金等の現金資産(iii)将来の現金獲得能力があると考えられる売却可能資産や市税等の収入未済額(長期延滞債権・未収金)といった、将来、自治体に資金流入をもたらす資産があります。

「負債」とは、将来の支払い義務の履行により自治体から資金流出をもたらすものです。負債に計上される主な項目として地方債があり、将来償還していく義務があるため負債へ計上されます。また、地方債は公共資産など住民サービスを提供するために保有する財産の財源として見た場合、住民サービスを受ける世代間の公平性の観点から発行するものと考えられているため、「負債」は将来世代が負担する部分といえます。

「純資産」とは、資産と負債の差額です。住民サービスを提供するために保有する財産の財源として見た場合、「純資産」はこれまでの世代が負担した部分といえます。

②貸借対照表の主な勘定科目

【資産の部】

公共資産

有形固定資産

有形固定資産は、市が保有する土地、建物、工作物などで、「生活インフラ・国土保全」、「教育」、「福祉」、「環境衛生」、「産業振興」、「消防」、「総務」の7つの行政目的別に分類集計し計上しています。

「総務省方式改訂モデル」では資産評価について、「当面の間は取得原価を基礎として算定した価額をもって計上すること」が容認されていますが、本市では平成21年度に土地の、平成24年度に土地を除く建物、工作物等について固定資産台帳の整備を行い、決算統計を基とした計上から、資産ごとの個別評価額への移行を行いました。

売却可能資産

市の財産のうち、普通財産（行政サービスに供していない財産）から山林、長期貸付している土地及び将来利用を予定している土地等を除き、固定資産評価額を基礎とした評価を行い計上しています。

投資等

投資及び出資金

市が保有する有価証券及び公営企業や関係団体等への出資金を計上しています。

市場価格のある有価証券は年度末の時価とし、市場価格のない投資及び出資金は実質価額を算定し取得価格と比較して30%以上低下した場合は実質価額、30%未満の場合は取得価格を計上しています。

また、出資先が連結対象団体の場合は、実質価格が30%以上低下した場合は、取得価格のまま計上し、実質価額との差額を「投資損失引当金」に計上しています。

基金等

基金のうち流動性の低いものを「その他特定目的基金」「土地開発基金」「退職手当組合積立金」に区分して計上しています。

また、「退職手当組合積立金」については、本市が所属する、岐阜県市町村職員退職手当組合の平成25年度末資産残高のうち、本市の持分相当額を計上しています。

長期延滞債権、回収不能見込額

収入未済額のうち、当初調定年度が前年度以前のものなどを「長期延滞債権」に計上しています。

「長期延滞債権」のうち、将来回収不能になることが見込まれるものを「回収不能見込額」に計上しています。

「回収不能見込額」の算定は、市税のうち1件が100万円以上の債権については個別の回収可能性を判断して算定し、1件が100万円未満の債権及び市税以外の債権については一律の回収不能見込率（40%）又は（10%）を乗じて算定し、計上しています。

流動資産

現金預金

基金のうち流動性の高い「財政調整基金」「減債基金」、及び形式収支に相当する「歳計現金」を計上しています。

未収金

今年度調定で収入未済となったもののうち、長期延滞債権へ振り替えた額を除き、「地方税」「その他」に区分して計上しています。

「未収金」についても、将来回収不能になることが見込まれるものを「回収不能見込額」に計上しています。

計上方法は、「長期延滞債権」と同様に算定し、計上しています。

【負債の部】

固定負債

地方債

年度末における地方債残高から、流動負債に計上する「翌年度償還予定額」を除いた額を計上しています。

長期未払金

債務負担行為のうち既に物件の引渡しやサービスの提供を受けたもの、債務保証又は損失補償の履行が決定したものについて、翌年度支出予定額を除いた額を計上しています。

PFI等の手法により整備した公共資産についても、物件の引渡しの有無に限らずに計上しています。

退職手当引当金

全職員（普通会計のみではなく公営企業会計、その他の公営事業会計職員含む）が年度末に全て自己都合により退職したと仮定した場合に必要な退職手当支給額を計上しています。

流動負債

翌年度償還予定額

年度末における地方債残高のうち、翌年度償還予定額を計上しています。

未払金

負債に計上する債務負担行為のうち、翌年度支出予定額を計上しています。

賞与引当金

職員（普通会計のみではなく公営事業会計含む）の翌年度の6月に支払う予定の期末手当及び勤勉手当のうち、当年度の負担相当額を計上しています。12月から5月までが翌年度6月の支給対象期間となるため、4ヶ月分（12月から3月）が当年度負担相当額になります。

【純資産の部】

公共資産等整備国県補助金等

住民サービスを提供するための資産を取得した財源のうち、国県補助金（減価償却累計額を除いた分）の累計額を計上しています。

公共資産等整備一般財源等

住民サービスを提供するための資産を取得した財源のうち、国県補助金、地方債、債務負担行為以外のものを計上しています。（減価償却累計額を除く）

その他一般財源等

資産合計から負債合計、公共資産等整備国県補助金等、公共資産等整備一般財源等、資産評価差額を除いた額を計上しています。

資産評価差額

売却可能資産の売却可能価額と帳簿価額との差額、有形固定資産の再調達価額と帳簿価額との差額、有価証券の時価と取得価格との差額及び寄付等により無償で資産を受贈した場合の当該資産に係る評価額の合計額を計上しています。

なお、平成21年度に有形固定資産のうち土地について、固定資産税評価額を基礎とした再調達価額での計上を行いましたが、昭和43年以前に取得した土地については取得価格がほとんど不明であり、新たに寄附等で取得した土地と同様に取得価格を0と仮定していたため、資産評価差額が大きくなっています。

また、建物・工作物などについて平成24年度に固定資産台帳の整備を行い、決算統計の普通建設事業費の積上げから、資産ごとの個別評価に見直したことも資産評価差額が大きくなっている要因です。

③貸借対照表

貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
[資産の部]		[負債の部]	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	15,230,791
①生活インフラ・国土保全	83,944,228	(2) 長期未払金	
②教育	56,426,531	①物件の購入等	443,291
③福祉	2,952,019	②債務保証又は損失補償	0
④環境衛生	482,806	③その他	0
⑤産業振興	894,010	長期未払金計	443,291
⑥消防	2,066,579	(3) 退職手当引当金	4,691,643
⑦総務	5,435,266	(4) 損失補償等引当金	0
有形固定資産合計	152,201,439	固定負債合計	20,365,725
(2) 売却可能資産	222,763		
公共資産合計	152,424,202	2 流動負債	
2 投資等		(1) 翌年度償還予定地方債	1,887,536
(1) 投資及び出資金		(2) 短期借入金（翌年度繰上充用金）	0
①投資及び出資金	323,368	(3) 未払金	82,369
②投資損失引当金	0	(4) 翌年度支払予定退職手当	0
投資及び出資金計	323,368	(5) 賞与引当金	226,575
(2) 貸付金	0	流動負債合計	2,196,480
(3) 基金等		負債合計	22,562,205
①退職手当目的基金	0		
②その他特定目的基金	2,883,996	[純資産の部]	
③土地開発基金	880,529	1 公共資産等整備国県補助金等	16,537,899
④その他定額運用基金	0	2 公共資産等整備一般財源等	128,082,238
⑤退職手当組合積立金	5,577,121	3 その他一般財源等	△ 561,175
基金等計	9,341,646	4 資産評価差額	4,604,755
(4) 長期延滞債権	585,209	純資産合計	148,663,717
(5) 回収不能見込額	△ 235,010		
投資等合計	10,015,213	負債・純資産合計	171,225,922
3 流動資産			
(1) 現金預金			
①財政調整基金	6,240,965		
②減債基金	606,906		
③歳計現金	1,885,149		
現金預金計	8,733,020		
(2) 未収金			
①地方税	82,898		
②その他	4,983		
③回収不能見込額	△ 34,394		
未収金計	53,487		
流動資産合計	8,786,507		
資 産 合 計	171,225,922		

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産	①生活インフラ・国土保全	3,413,985 千円
	②教育	828,566 千円
	③福祉	1,153,905 千円
	④環境衛生	666,964 千円
	⑤産業振興	1,101,548 千円
	⑥消防	18,831 千円
	⑦総務	278,628 千円
	計	7,462,427 千円
上の支出金に充当された財源	①国県補助金等	1,039,033 千円
	②地方債	453,861 千円
	③一般財源等	5,969,533 千円
	計	7,462,427 千円
※2 債務負担行為に関する情報	①物件の購入等	1,038,914 千円
	②債務保証又は損失補償	0 千円
	(うち共同発行地方債に係るもの)	0 千円
	③その他	1,907,353 千円
※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち19,401,641千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれている		
※4 普通会計の将来負担に関する情報		

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 【(翌年度償還予定)地方債・(長期)未払金・引当金】	注記 【契約債務・偶発債務】
普通会計の将来負担額	35,310,609 千円		
[内訳] 普通会計地方債残高	17,118,327 千円	17,118,327 千円	
債務負担行為支出予定額	1,332,874 千円	525,660 千円	807,214 千円
公営事業地方債負担見込額	16,291,263 千円		16,291,263 千円
一部事務組合等地方債負担見込額	568,145 千円		568,145 千円
退職手当負担見込額	0 千円	0 千円	
第三セクター等債務負担見込額	0 千円	0 千円	0 千円
連結実質赤字額	0 千円		
一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円		
基金等将来負担軽減資産	53,948,572 千円		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	11,033,696 千円		
地方債償還額等充当歳入見込額	10,349,258 千円		
地方債償還額等充当交付税見込額	32,565,618 千円		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	△ 18,637,963 千円		

※5 有形固定資産のうち、土地は73,497,084千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は80,335,999千円です。

(3) 行政コスト計算書

①行政コスト計算書とは

行政コスト計算書とは、行政活動のうち人的サービスや給付サービスなどの資産形成に結びつかない行政サービスを提供するために要した経費を「経常行政コスト」で表し、施設の利用料や保育料といった行政サービス提供の結果で得られた受益者負担を「経常収益」で表し、「経常行政コスト」から「経常収益」を差し引いたものを「純経常行政コスト」で表しています。

行政コスト計算書は性質別の区分と行政目的別の区分をマトリックス形式で表示し、目的別にどのような性質に経費がかかっているのかを把握することができます。

また、行政コスト計算書は民間企業の損益計算書に相当しますが、損益計算書が1年間の収益と費用から利益がどれだけあるのかを表すものであるのとは異なり、行政活動の最も重要な財源である市税や地方交付税といった一般財源を経常収益に含めていないため、「純経常行政コスト」は大幅なコスト超過になっています。

人的サービスや給付サービスなどの経常的な行政サービスにどれだけのコストがかかっているのか、その行政サービスの提供に対する直接的な負担部分である受益者負担はどれだけで、コストに対してどの程度の割合なのかを把握することができます。

②行政コスト計算書性質別項目

	項 目	内 容
経 常 行 政 コ ス ト	人件費	給与費等から退職手当や前年度賞与引当金計上額を除いた金額
	退職手当引当金繰入等	退職手当及び当該年度に退職手当引当金として新たに繰り入れた額
	賞与引当金繰入額	当該年度の貸借対照表に計上した賞与引当金の額
	物件費	旅費、光熱水費、委託料、備品購入費などの経費
	維持補修費	施設などの維持修繕に要する経費
	減価償却費	有形固定資産の経年劣化に伴い、価値が減少したと認められる金額
	社会保障給付	障がい者や高齢者に対する援護措置、児童手当等の給付、生活保護などに要する経費
	補助金等	一部事務組合負担金や各種団体に対する補助金など
	他会計への支出額	特別会計など他会計に対する繰出金など
	他団体への公共資産整備補助金等	投資的経費のうち、他団体等への補助金など（市の所有とならない資産が形成される場合）
	支払利息	地方債及び一時借入金の利子支払額
	回収不能見込計上額	市税や使用料などのうち、回収不能見込額として新たに貸借対照表に計上した金額及び当該年度の不納欠損額
	その他行政コスト	上記以外の行政コストのほか、長期未払金及び未払金として新たに貸借対照表に計上した額
経常収益	使用料・手数料 分担金・負担金・寄付金	当該年度の収入額と、長期延滞債権及び未収金として新たに貸借対照表に計上した額

③行政コスト計算書

行政コスト計算書

自平成25年4月1日
至平成26年3月31日

(単位：千円)

【経常行政コスト】	総額	(構成比率)	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他行政コスト
(1)人件費	3,240,686	13.2%	370,435	519,642	498,023	210,783	169,561	18,951	1,225,474	227,817			0
(2)退職手当引当金繰入等	△ 238,224	-1.0%	△ 25,291	△ 39,642	△ 43,204	△ 16,786	△ 13,737	0	△ 95,617	△ 3,937			0
(3)賞与引当金繰入額	226,575	0.9%	29,595	34,431	46,786	13,090	10,821	0	75,901	15,951			0
小計	3,229,037	13.1%	374,739	514,431	501,605	207,077	166,645	18,951	1,205,758	239,831			0
(1)物件費	4,563,658	18.5%	283,443	2,182,339	434,739	797,906	85,330	67,282	704,608	8,011			0
(2)維持補修費	145,951	0.6%	93,001	42,995	4,065	304	1,773	170	3,643	0			
(3)減価償却費	3,400,190	13.8%	1,789,786	1,250,167	80,516	2,815	48,006	78,278	150,622				
小計	8,109,799	32.9%	2,166,230	3,475,501	519,320	801,025	135,109	145,730	858,873	8,011			0
(1)社会保険給付	5,424,459	22.0%		31,128	5,389,614	3,717							
(2)補助金等	3,486,978	14.2%	26,868	297,374	241,456	1,333,919	235,955	998,664	347,527	5,215			0
(3)他会計等への支出額	3,757,669	15.2%	1,433,860	0	2,100,329	67,145	150,096	6,239	0	0			0
(4)他団体への公共資産等補助金等	381,762	1.5%	119,997	0	166,253	71,000	0	0	24,512				0
小計	13,050,868	53.0%	1,580,725	328,502	7,897,652	1,475,781	386,051	1,004,903	372,039	5,215			0
(1)支払利息	215,706	0.9%								215,706			
(2)回収不能見込計上額	36,208	0.1%									36,208		
(3)その他行政コスト	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0			0
小計	251,914	1.0%	0	0	0	0	0	0	0	215,706	36,208		0
経常行政コスト a	24,641,618		4,121,694	4,318,434	8,918,577	2,483,883	687,805	1,169,584	2,436,670	253,057	215,706	36,208	0
(構成比率)			16.7%	17.5%	36.2%	10.1%	2.8%	4.8%	9.9%	1.0%	0.9%	0.1%	0.0%

【経常収益】

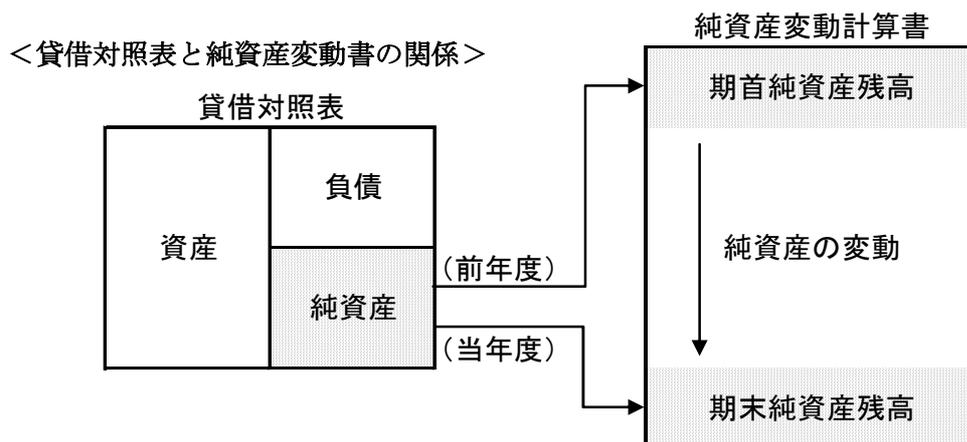
1 使用料・手数料 b	592,135		66,463	53,224	92,542	140,296	32,927	0	49,402	0	0	0	157,281
2 分担金・負担金・寄附金 c	286,420		560	9,120	241,945	3,859	5,106	200	10,392	0	0	0	15,238
経常収益合計 d	878,555		67,023	62,344	334,487	144,155	38,033	200	59,794	0	0	0	172,519
(b+c)/a	3.6%		1.6%	1.4%	3.8%	5.8%	5.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(差引)純経常行政コスト a-d	23,763,063		4,054,671	4,256,090	8,584,090	2,339,728	649,772	1,169,384	2,376,876	253,057	215,706	36,208	△ 172,519

(4) 純資産変動計算書

①純資産変動計算書とは

純資産変動計算書とは、貸借対照表における純資産が1年間でどのように変動したかを表している計算書です。純資産の部を構成する「公共資産等整備国県補助金等」「公共資産等整備一般財源等」「その他一般財源等」及び「資産評価差額」について、その増減の要因となった項目が左列に掲げられています。

貸借対照表の純資産の部は、これまでの世代が負担してきた部分ですので、1年間でこれまでの世代が負担してきた部分が増えたのか減ったのか把握することができます。



②純資産変動計算書項目

項 目		内 容
純経常行政コスト		行政コスト計算書における純経常行政コスト
一 般 財 源	地方税	市税の当該年度収入額+長期延滞債権及び未収金として新たに貸借対照表に計上した額
	地方交付税	普通交付税及び特別交付税
	その他行政コスト充当財源	地方譲与税、各種交付金、財産収入、繰入金、諸収入の当該年度収入額+長期延滞債権及び未収金として新たに貸借対照表に計上した額
補助金等受入		国庫支出金及び県支出金
臨 時 損 益	公共資産除売却損益	公共資産の売却に伴う公共資産計上額と売却額との差額
	投資損失	投資及び出資金の時価又は実質価額が取得価格に比べ30%以上下落した場合の当該下落額（連結団体除く）
科 目 振 替	公共資産整備への財源投入	貸借対照表の公共資産を整備するために投じられた財源（充当された国・県支出金及び地方債の額を除く）の変動
	貸付金・出資金等への財源投入	投資及び出資金の取得、貸付金の貸付、基金の積立等に投じられた科目間の振替等
	貸付金・出資金等の回収等による財源増	投資及び出資金の処分、貸付金の回収、基金の取崩し等による科目間の振替等
	減価償却による財源増	減価償却による、公共資産等整備にかかる財源から、その他一般財源への振替
	地方債償還に伴う財源振替	地方債元金償還による、その他一般財源から公共資産等整備一般財源等への振替
資産評価替えによる変動額		資産の評価替を行った差額や、売却可能資産に新規・追加計上した額、市場価格のある出資金の時価評価による差額など

③純資産変動計算書

純資産変動計算書

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	147,921,781	16,070,471	128,233,699	△ 991,108		4,608,719
純経常行政コスト	△ 23,763,063			△ 23,763,063		
一般財源						
地方税	13,806,757			13,806,757		
地方交付税	2,912,984			2,912,984		
その他行政コスト充当財源	2,386,852			2,386,852		
補助金等受入	5,579,426	969,735		4,609,691		
臨時損益						
災害復旧事業費	0			0		
公共資産除売却損益	△ 60,950			△ 60,950		
投資損失	△ 119			△ 119		
損失補償等引当金繰入等	0			0		
科目振替						
公共資産整備への財源投入			1,099,456	△ 1,099,456		
公共資産処分による財源増		△ 10,400	△ 241,964	252,364		0
貸付金・出資金等への財源投入			1,233,172	△ 1,233,172		
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 209,504	209,504		
減価償却による財源増		△ 491,907	△ 3,024,270	3,400,190		115,987
地方債償還等に伴う財源振替			991,649	△ 991,649		
資産評価替えによる変動額	△ 119,951					△ 119,951
無償受贈資産受入	0					0
その他	0					0
期末純資産残高	148,663,717	16,537,899	128,082,238	△ 561,175		4,604,755

(5) 資金収支計算書

① 資金収支計算書とは

資金収支計算書は、歳計現金（＝資金）の出入りの情報を「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」の3つに区分して表し、1年間の行政活動の収入・支出の実態を反映させた計算書です。

どのような行政活動に資金を必要とし、どのように賄ったかを把握することができます。

② 資金収支計算書の構成

「経常的収支の部」は、人件費、物件費、社会保障給付などの支出と、市税、使用料、手数料などの収入を計上し、経常的な行政活動に係る資金収支を表しています。

「公共資産整備収支の部」は、自らの団体が行った公共資産の整備による支出のほか、他団体が行った公共資産整備に対する補助金や他会計への繰出金や負担金のうち建設費に使われた支出と、その財源となる国・県補助金や地方債などを収入として計上し、公共資産整備に伴う資金の使途とその財源の状況を表しています。

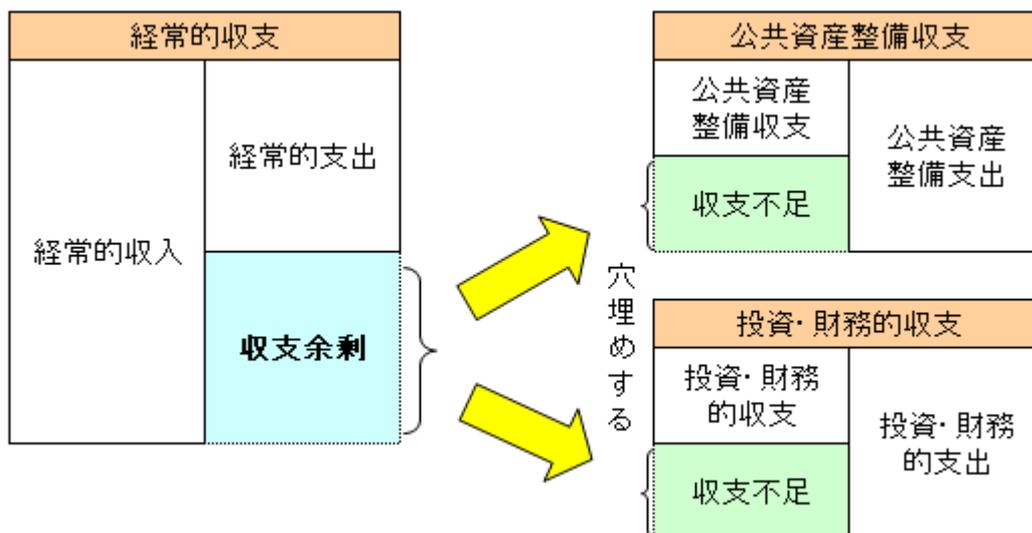
「投資・財務的収支の部」は、出資金、貸付金、地方債の元金償還額、他会計への繰出金のうち地方債の元金償還の財源となったものなどの支出と、その財源となる貸付金の返還金や公共資産等売却収入などを収入として計上し、投資や地方債の償還による資金の出入りの状況を表しています。

< 資金収支計算書の3つの区分の関係 >

資金計算書の3つの区分は、「経常的収支の部」で生じた収支余剰（黒字）で「公共資産整備収支の部」と「投資・財務的収支の部」の収支不足（赤字）を穴埋め（補てん）するという関係になります。

「経常的収支の部」の黒字が「公共資産整備収支の部」と「投資・財務的収支の部」の赤字合計より大きい場合は、期首にあった歳計現金が増加していることを表し、赤字合計が大きい場合は歳計現金が減少していることを表しています。

「経常的収支の部」の黒字が大きいほど公共資産整備を行う余裕があることになり、黒字が小さくなると財政状況が硬直化しているといえます。



③資金収支計算書

資金収支計算書

〔 自平成25年4月1日
至平成26年3月31日 〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	3,769,450
物件費	4,563,658
社会保障給付	5,424,459
補助金等	3,486,978
支払利息	215,706
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	2,205,448
その他支出	145,951
支出合計	19,811,650
地方税	13,795,109
地方交付税	2,912,984
国県補助金等	4,420,106
使用料・手数料	592,747
分担金・負担金・寄附金	291,576
諸収入	735,343
地方債発行額	1,105,700
基金取崩額	44,000
その他収入	1,772,248
収入合計	25,669,813
経常的収支額	5,858,163

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	3,036,448
公共資産整備補助金等支出	381,762
他会計等への建設費充当財源繰出支出	6,239
支出合計	3,424,449
国県補助金等	1,159,320
地方債発行額	760,100
基金取崩額	0
その他収入	29,155
収入合計	1,948,575
公共資産整備収支額	△ 1,475,874

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	53
貸付金	65,800
基金積立額	1,189,952
定額運用基金への繰出支出	620
他会計等への公債費充当財源繰出支出	1,545,982
地方債償還額	1,929,407
支出合計	4,731,814
国県補助金等	0
貸付金回収額	65,800
基金取崩額	0
地方債発行額	0
公共資産等売却収入	191,414
その他収入	10,208
収入合計	267,422
投資・財務的収支額	△ 4,464,392

当年度短期借入金(翌年度繰上充用金)増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 82,103
飲料水供給事業特別会計廃止による調整	△ 1,314
期首歳計現金残高	1,968,566
期末歳計現金残高	1,885,149

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
 ② 平成25年度における一時借入金の借入限度額は1,000,000千円です。
 ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は0千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額		27,885,810 千円
地方債発行額	△	1,865,800
財政調整基金等取崩額	△	0
支出総額	△	27,967,913
地方債元利償還額		2,131,449
財政調整基金等積立額		134,242
基礎的財政収支		<u>317,788</u> 千円

4. 普通会計財務書類に基づく財務分析

(1) 貸借対照表の経年比較

当期の貸借対照表の数値を過年度の数値と比較しています。過年度の数値と比較することで当期の傾向を把握することができます。

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度	前年比
公共資産	152,424,202	153,252,505	99.5%
投資等	10,015,213	8,986,086	111.5%
流動資産	8,786,507	8,732,403	100.6%
資産合計	171,225,922	170,970,994	100.1%
固定負債	20,365,725	20,811,421	97.9%
流動負債	2,196,480	2,237,792	98.2%
負債合計	22,562,205	23,049,213	97.9%
純資産	148,663,717	147,921,781	100.5%
負債・純資産合計	171,225,922	170,970,994	100.1%

公共資産は、828,303千円減額になります。これは取得・改修等による資産の増加に比べて、減価償却費による資産評価額の減少が大きいことが要因です。

投資等は、1,029,127千円増額になります。主な増減要因は、投資及び出資金が148,190千円減額しているものの、公共施設整備基金をはじめとした特定目的基金が1,011,710千円増額していることによります。

流動資産は、54,104千円増額になります。主な増減要因は、歳計現金が83,417千円減額しているものの、財政調整基金が133,292千円増額していることによります。

負債合計は、487,008千円減額になります。主な増減要因は退職手当引当金が341,592千円、地方債残高が63,607千円減額していることによります。

(2) 市民一人当たりの貸借対照表

貸借対照表全体では、人口規模等の違いにより単純な他団体との比較は困難ですが、市民一人当たりの数値を算出することにより、他団体との比較がしやすくなり、より市民が実感を持てる数値となります。

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度
公共資産	1,512	1,516
投資等	99	89
流動資産	87	86
資産合計	1,698	1,691
固定負債	202	206
流動負債	22	22
負債合計	224	228
純資産	1,474	1,463
負債・純資産合計	1,698	1,691

※住民基本台帳人口 平成26年1月1日現在 100,815人、平成25年3月31日現在 101,121人
「住民基本台帳人口」とは、各市町村に備え付けてある住民基本台帳に記録されている住民の数です。

本市では、市民一人当たり1,698千円の公共資産などの資産を持ち、224千円の地方債などによる負債を抱えていることとなります。

(3) 貸借対照表の他都市比較

県内主要都市（岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、各務原市）のほか、類似団体（土岐市、関市、埼玉県秩父市、石川県加賀市、新潟県柏崎市、長野県岡谷市、兵庫県高砂市、山口県下松市）について比較しています。

※可児市は26年3月末現在、他都市は25年3月末現在の財務書類を活用

※類似団体とは、人口及び産業構造等により全国の市町村を分類した結果、同じグループに属する団体のことをいいます。

①市民一人当たり資産の状況

可児市の市民一人当たりの資産は、平均的な額よりも少額となっています。

(単位：千円)

順位	市名	人口	金額	順位	市名	人口	金額	
1	高山市	92,097	3,197	8	可児市	100,815	1,698	
2	秩父市	67,451	2,971	9	岡谷市	51,833	1,677	
3	柏崎市	89,511	2,478	10	高砂市	94,513	1,658	
4	関市	92,436	2,170	11	大垣市	163,134	1,550	
5	加賀市	71,611	2,007	12	多治見市	115,178	1,482	
6	各務原市	148,926	1,929	13	土岐市	61,190	1,417	
7	岐阜市	416,750	1,848	14	下松市	56,212	1,414	
							平均	1,964

人口は、可児市は平成26年1月1日現在、県内主要都市・類似団体は平成25年3月31日現在の住民基本台帳人口。
(以下の表では、人口は省略します。)

② 市民一人当たり負債の状況

可児市の市民一人当たりの負債は、比較他都市のなかで最も少額となっています。

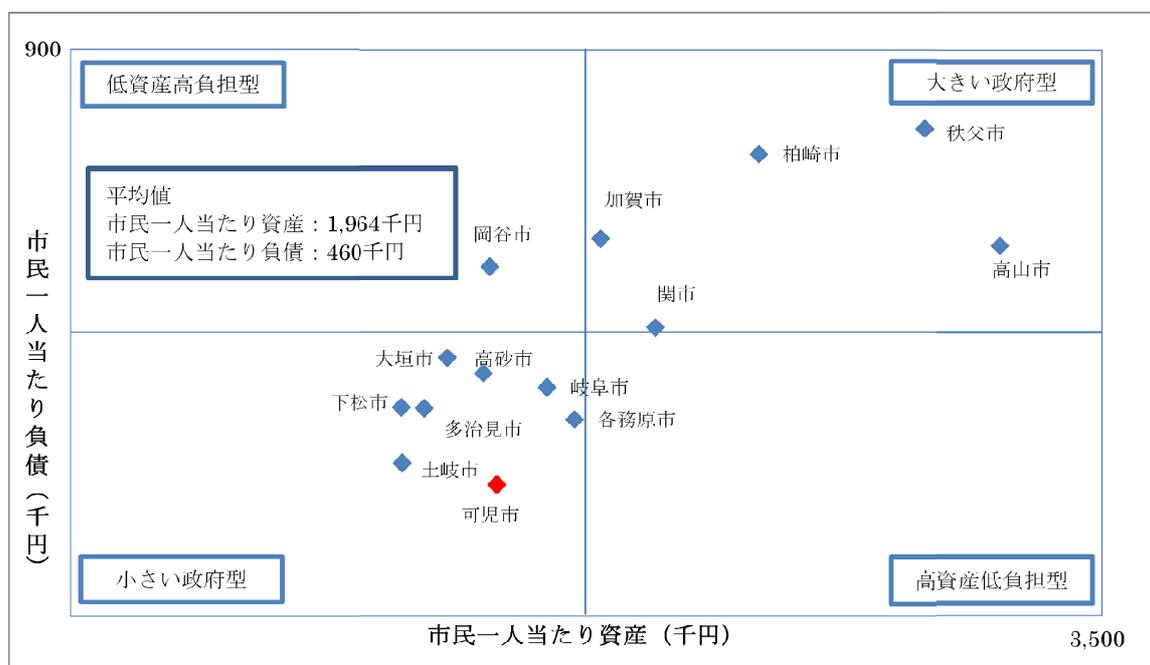
(単位：千円)

順位	市名	金額	順位	市名	金額
1	秩父市	777	8	高砂市	397
2	柏崎市	738	9	岐阜市	375
3	加賀市	606	10	下松市	344
4	高山市	596	11	多治見市	343
5	岡谷市	563	12	各務原市	325
6	関市	468	13	土岐市	258
7	大垣市	421	14	可児市	224
			平均		460

③市民一人当たり資産と負債の関係

可児市は、小さい政府型に属しています。他都市との相対的な比較として、市民一人当たりの負債が少なく、資産は平均的です。

大きい政府型：資産も負債も多い
 小さい政府型：資産も負債も少ない
 高資産低負担型：資産が多く負債は少ない
 低資産高負担型：負債が多く資産は少ない



(4) 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産による形成割合を見ることにより、これまでの世代によって既に負担された割合を把握することができます。

また、地方債に着目することにより、これから返済しなければならない、将来世代の負担割合を把握することができます。

公共資産は長期にわたって住民に利用されるものであり、将来利用する世代との間で公平な負担割合とすることが望ましいため、必ずしも将来世代の負担割合が少ない方がよいとはいえず、現世代と将来世代とで負担割合のバランスをみる必要があります。しかし、借金（地方債）が少なければ将来世代の負担は軽くなるため、財政状況は健全であるといえます。

(単位：千円)

項 目	平成25年度	平成24年度
公共資産合計(a)	152,424,202	153,252,505
純資産合計(b)	148,663,717	147,921,781
地方債残高(c)	17,118,327	17,181,934
これまでの世代負担比率(b/a)	97.5%	96.5%
将来世代負担比率(c/a)	11.2%	11.2%

※社会資本形成の財源とならない地方債が含まれるため、それぞれの負担比率の合計は100%になりません。

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

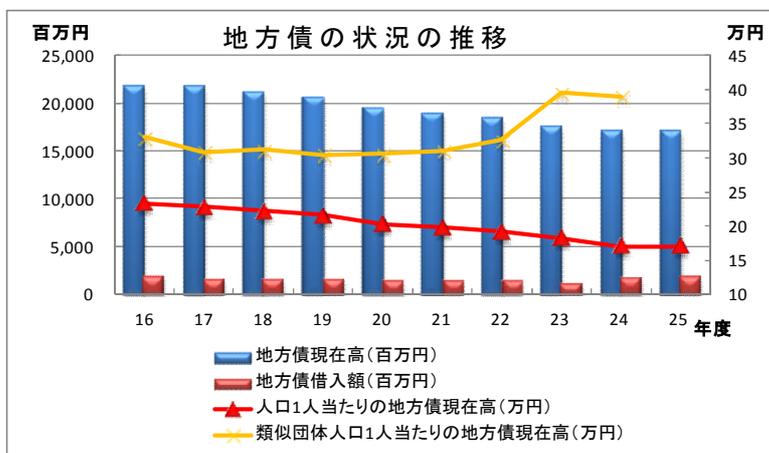
項 目	可児市	高砂市	関市
これまでの世代負担比率	97.5%	85.1%	88.7%
将来世代負担比率	11.2%	19.3%	20.3%

これまでの世代負担比率は97.5%、将来世代負担比率は11.2%となります。

公共資産を形成してきた財源の大部分は、既にこれまでの世代により賄われていることがわかります。また、これまでの世代負担比率に対し将来世代の負担割合が高い場合は負担の先送りをしていることとなりますが、将来世代の負担割合が低いいため健全な財政状況といえます。

昨年度と比較すると、これまでの世代負担比率は1.0ポイントの増加、将来世代負担比率は同水準で推移しています。これは、純資産合計の増、地方債残高の減少と公共資産合計の減少が同程度であることが要因です。

<地方債の状況の推移>



将来世代の負担が大きくなるように、償還額より少ない地方債の借入を行うことで地方債残高は減少しています。

(5) 歳入総額対資産比率

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成された資産は何年分の歳入が充当されたかを把握することができます。

(単位：千円)

項目	平成25年度	平成24年度
資産合計(a)	171,225,922	170,970,994
歳入総額(b)	29,853,062	29,285,923
歳入総額対資産比率(a/b)	5.74年	5.84年

※歳入総額は資金収支計算書の各部の収入合計の総額に期首歳計現金残高を加算して算出

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

項目	可児市	高砂市	関市
歳入総額対資産比率	5.74年	4.77年	5.10年

歳入総額対資産比率は5.74年となります。この比率が高いほど社会資本整備が進んでいるといえますが、それに伴い維持管理費が多く発生するため財政を圧迫する可能性があります。

昨年度と比較すると、投資等の増額の影響で資産合計が増額しているものの、歳入総額も増額していることから、0.10年減少しています。

(6) 資産老朽化比率

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を算定することにより、耐用年数に対してどの程度経過しているか把握することができます。

資産老朽化比率(%) = 減価償却累計額 ÷ (有形固定資産合計 - 土地 + 減価償却累計額) × 100

	平成25年度	平成24年度
生活インフラ・国土保全	51.3%	50.4%
教育	43.6%	41.8%
福祉	70.7%	69.4%
環境衛生	32.5%	29.5%
産業振興	91.1%	92.4%
消防	53.7%	51.7%
総務	40.2%	38.2%
合計	51.4%	50.3%

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

項目	可児市	高砂市	関市
資産老朽化比率	51.4%	65.6%	46.9%

全体の資産老朽化比率は51.4%となります。行政目的別にみると産業振興(91.1%)、福祉(70.7%)の比率が高くなっています。

(7) 行政コスト計算書の経年比較

当期の行政コスト計算書の数値を過年度の数値と比較しています。過年度の数値と比較することで当期の傾向を把握することができます。

(単位：千円)

	平成25度	平成24年度	前年比
(1)人にかかるコスト	3,229,037	3,387,182	95.3%
(2)物にかかるコスト	8,109,799	2,321,543	349.3%
(3)移転支的コスト	13,050,868	12,754,043	102.3%
(4)その他のコスト	251,914	437,218	57.6%
経常行政コスト	24,641,618	18,899,986	130.4%
経常収益	878,555	880,817	99.7%
純経常行政コスト	23,763,063	18,019,169	131.9%

経常行政コストの項目

- (1)人にかかるコスト ……人件費、退職手当引当金繰入等、賞与引当金繰入等
- (2)物にかかるコスト ……物件費、維持補修費、減価償却費
- (3)移転支的コスト……社会保障給付、補助金等、他会計・他団体への支出額
- (4)その他のコスト ……支払利息、回収不能見込計上額、その他行政コスト

人にかかるコストは、158,145千円減額になります。主な増減要因は退職手当引当金繰入等が113,091千円減額になったことによります。

物にかかるコストは、5,788,256千円増額になります。主な増減要因は、資産評価の見直しに伴う調整により昨年度の減価償却費が大幅に減額していた影響で、今年度は5,684,545千円の増額になったことによります。

移転支的コストは、296,825千円増額になります。主な増減要因は社会保障経費が161,955千円、補助費等が99,995千円増額したことによります。

その他のコストは、185,304千円減額になります。主な増減要因は回収不能見込み額が161,395千円減額したことによります。

経常収益は、教育で11,887千円、福祉で8,519千円の増額があるものの、生活インフラ・国土保全で9,602千円、消防で12,785千円の減額があり、全体では2,262千円減額しています。

(8) 市民一人当たりの行政コスト計算書

行政コスト計算書自体では、人口規模等の違いにより単純な他団体との比較は困難ですが、市民一人当たりの数値を算出することにより、他団体との比較がしやすくなり、より市民が実感を持てる数値となります。

(単位：千円)

		平成25年度		平成24年度	
		市民一人 当たり(※)	構成比	市民一人 当たり(※)	構成比
人 に か か る コ ス ト	(1)人件費	32	13.1%	33	17.6%
	(2)退職手当引当金繰入等	△2	△0.8%	△1	△0.5%
	(3)賞与引当金繰入額	2	0.8%	2	1.1%
	小 計	32	13.1%	34	18.2%
物 に か か る コ ス ト	(1)物件費	45	18.4%	44	23.5%
	(2)維持補修費	1	0.4%	2	1.0%
	(3)減価償却費	34	14.0%	△23	△12.3%
	小 計	80	32.8%	23	12.2%
移 転 支 出 的 な コ ス ト	(1)社会保障給付	54	22.1%	52	27.8%
	(2)補助金等	35	14.3%	34	18.2%
	(3)他会計等への支出額	37	15.2%	37	19.8%
	(4)他団体への公共資産整備補助金等	4	1.7%	3	1.6%
	小 計	130	53.3%	126	67.4%
そ の 他 の コ ス ト	(1)支払利息	2	0.8%	2	1.1%
	(2)回収不能見込計上額	0	0.0%	2	1.1%
	(3)その他行政コスト	0	0.0%	0	0.0%
	小 計	2	0.8%	4	2.2%
経常行政コスト		244	100.0%	187	100.0%
経常収益		9		9	
純経常行政コスト		235		178	

※住民基本台帳人口 平成26年1月1日現在 100,815人、平成25年3月31日現在 101,121人

※端数計算の結果合計が合わない場合があります。

本市では、市民一人当たりで、人にかかるコストとして**32千円**、物にかかるコストとして**80千円**、移転支出的なコストとして**130千円**、その他のコストとして**2千円**、合計で経常行政コストとして**244千円**かかっていることとなります。

(9) 行政コスト計算書の他都市比較

①市民一人当たり行政コストの状況

可児市の市民一人当たりの行政コストは、比較他都市のなかでも少額となっています。

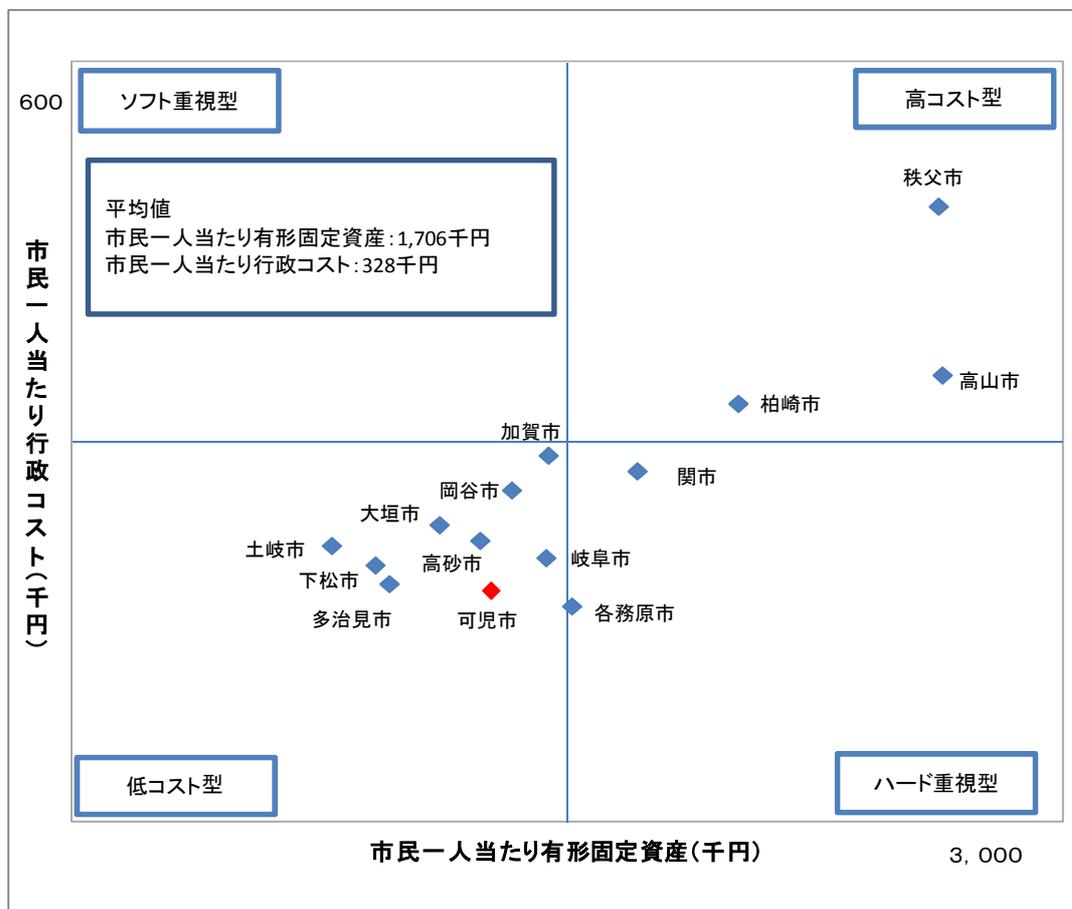
(単位：千円)

順位	市名	金額	順位	市名	金額
1	秩父市	576	8	高砂市	287
2	高山市	430	9	土岐市	283
3	柏崎市	406	10	岐阜市	273
4	加賀市	361	11	下松市	266
5	関市	347	12	多治見市	250
6	岡谷市	331	13	可児市	244
7	大垣市	301	14	各務原市	231
				平均	328

②社会資本整備と行政コストの関係

可児市は、低コスト型に属しています。他都市との相対的な比較として、市民一人当たりの行政コストは少なく、有形固定資産は平均的です。

高コスト型：有形固定資産も行政コストも多い
 低コスト型：有形固定資産も行政コストも少ない
 ハード重視型：有形固定資産は多いが行政コストは少ない
 ソフト重視型：有形固定資産は少ないが行政コストは多い



(10) 受益者負担比率

行政コスト計算書における経常収益は、施設の利用料や保育料といった行政サービス提供の結果で得られた受益者負担のみを計上しているため、経常収益の行政コストに対する割合を算定することで、受益者負担の割合を把握することができます。

	平成25年度	平成24年度
生活インフラ・国土保全	1.6%	1.8%
教育	1.4%	△3.8%
福祉	3.8%	3.7%
環境衛生	5.8%	5.8%
産業振興	5.5%	6.3%
消防	0.0%	1.3%
総務	2.5%	2.3%
議会	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%
合 計	3.6%	4.6%

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

項 目	可児市	高砂市	関市
受益者負担比率	3.6%	3.9%	4.0%

受益者負担比率は3.6%となります。行政目的別にみると環境衛生(5.8%)、産業振興(5.5%)、福祉(3.8%)の比率が高くなっています。

職員数の抑制や効率的な行財政運営を通してコストの削減に取り組みながら、提供している行政サービスに見合う分担金・負担金・使用料などの負担割合に常に注意を払っていく必要があります。

(11) 行政コスト対公共資産比率

経常行政コストの公共資産に対する比率からは、どれだけのコストで資産を活用しているか(資産が効率的に活用されているか)を把握することができます。

(単位：千円)

項目	平成25年度	平成24年度
経常行政コスト(a)	24,641,618	18,899,986
公共資産(b)	152,424,202	153,252,505
行政コスト対公共資産比率(a/b)	16.2%	12.3%

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

項目	可児市	高砂市	関市
行政コスト対公共資産比率	16.2%	19.4%	18.1%

行政コスト対公共資産比率は16.2%となります。平均的な値は10%~30の間となりますが、可児市は同程度の他市と比べて少ないコストで資産活用をしています。

(12) 行政コスト対税収等比率

一般財源等に対する純経常行政コストの割合を把握することで、純経常行政コストのうち、どれだけが当年度の負担で賄われたかが分かります。

100%を下回る場合は、翌年度以降へ引き継ぐ資産が蓄積されたか、翌年度以降に引き継ぐ負担が軽減されたことを意味します。逆に100%を上回っている場合は、過去から蓄積された資産が取り崩されたか、翌年度以降に引き継ぐ負担が増加したことになります。また、比率の数値が100%から乖離しているほど、その割合が高いことを表します。

(単位：千円)

項目	平成25年度	平成24年度
純経常行政コスト(a)	23,763,063	18,019,169
一般財源(b)	19,106,593	19,471,182
補助金等受入 (その他の一般財源等分のみ)(c)	4,609,691	4,152,513
行政コスト対公共資産比率 (a/(b+c))	100.2%	76.3%

【参考】人口が可児市と同程度で、総務省改訂モデルで財務書類を作成している類似団体の状況

項目	可児市	高砂市	関市
行政コスト対公共資産比率	100.2%	102.6%	103.8%

行政コスト対税収等比率は100.2%となります。受益者負担を除いた行政サービスコストは、平成25年度中の一般財源等とほぼ同額であることが分かります。

(13) プライマリーバランス（基礎的財政収支）

資金収支計算書に注記されているプライマリーバランスは、地方債の発行や償還と財政調整基金等の取崩しや積立金を差し引いた歳入と歳出の収支を算定することで、財政の健全度を把握することができます。

プライマリーバランスの赤字は、地方債を発行しなければ必要な行政サービスの提供するための資金が賅えていないことになり、現在の負担を将来世代に先送りすることになります。一方、プライマリーバランスの黒字は、現世代の受益を現世代の資金で賅っており、借金に頼らない健全な財政運営をしていることになります。

（単位：千円）

	平成25年度	平成24年度
収入総額	27,885,810	27,452,688
地方債発行額	△1,865,800	△1,666,100
財政調整基金等取崩額	0	0
支出総額	△27,967,913	△27,317,357
地方債元利償還額	2,131,449	2,204,423
財政調整基金等積立額	134,242	835,346
基礎的財政収支	317,788	1,509,000

当期のプライマリーバランスは、黒字を維持しています。

5. 連結財務書類

市では、普通会計で実施している事業のほかにも、公営企業会計で水道会計、その他の公営事業会計で下水道事業や国民健康保険事業などを実施しています。それに加え、市で実施している事業のほかに市と連携・協力して行政サービスを提供している関係団体もあります。

連結財務書類は、それらを連結することで一つの行政サービス実施主体とみなし、その資産及び負債、行政コスト、資金収支等の状況を明らかにするものです。

市の財政は普通会計だけで成り立っているのではないため、連結財務書類により真の可児市の財務状況が把握できることになります。

※連結対象の団体・法人等の資産や負債は市に帰属するものではありません。

(1) 連結財務書類作成基準

【連結の範囲】

①普通会計

一般会計、自家用工業用水道事業、可児駅東土地地区画整理事業の各特別会計を合算した会計です。(P3参照)

②公営事業会計

1) 公営企業会計

公営企業とは、組織、財務、職員の身分等について特例を定めている地方公営企業法を適用する地方公共団体が営む企業です。

水道事業

2) その他の公営事業会計

その他の公営事業会計とは、公営企業会計と同様、特定の収入をもって事業を行う会計で、上記の普通会計及び公営企業会計に属さない会計です。財産区会計については、市町村合併により市に財産を帰属させられない経緯から設けられた会計であるため、連結の対象から除きます。

国民健康保険事業（事業勘定、直診勘定）、後期高齢者医療事業、
介護保険事業（保険事業勘定、介護サービス事業勘定）、公共下水道事業、
特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業

③一部事務組合・広域連合

一部事務組合及び広域連合とは、複数の普通地方公共団体が行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置している組織です。

連結財務書類では、各団体が作成した財務書類をその団体に対しての負担割合等で按分した「比例連結」による金額を計上しています。

市は平成25年度末で10の一部事務組合・広域連合に加入しています。岐阜縣市町村職員退職手当組合については、積立金累計額及び運用益相当額が本市に按分されて普通会計の貸借対照表の退職手当積立金に加算されているため連結したものとみなします。また、平成25年度決算

作成段階において財務書類を作成していない団体とは連結していません。

可茂公設地方卸売市場組合、可茂衛生施設利用組合、可茂消防事務組合、可児川
 防災ため池組合、可児市・御嵩町中学校組合、岐阜県市町村会館組合、中濃地域
 農業共済事務組合、可茂広域行政事務組合

※平成25年度決算作成段階において財務書類が未作成のため連結対象外
 岐阜県後期高齢者医療広域連合

④地方公社・第三セクター等

市が設立した地方公社及び市の出資比率が50%以上の法人です。
 連結財務書類では、各団体が作成した財務書類を計上しています。

可児市土地開発公社、(公財)可児市文化芸術振興財団、(一般財)可児市公共施設振
 興公社、(公財)可児市体育連盟

<連結団体の区分>

区 分		負担割合 出資割合	行政目的	
地 方 公 共 団 体	普通会計	—		
	公 営 事 業 会 計	水道事業	—	環境衛生
		国民健康保険事業（事業勘定）	—	福祉
		国民健康保険事業（直診勘定）	—	環境衛生
		後期高齢者医療事業	—	福祉
		介護保険事業（保険事業勘定）	—	福祉
		介護保険事業（介護サービス事業勘定）	—	福祉
		公共下水道事業	—	生活インフラ・国土保全
		特定環境保全公共下水道事業	—	生活インフラ・国土保全
農業集落排水事業	—	産業振興		
一 部 事 務 組 合 ・ 広 域 連 合	可茂公設地方卸売市場組合	51.12%	産業振興	
	可茂衛生施設利用組合	43.77%	環境衛生	
	可茂消防事務組合	35.78%	消防	
	可児川防災ため池組合	57.10%	産業振興	
	可児市・御嵩町中学校組合	4.03%	教育	
	岐阜県市町村会館組合	5.60%	総務	
	中濃地域農業共済事務組合	11.11%	産業振興	
	岐阜県後期高齢者医療広域連合	未連結		
	可茂広域行政事務組合	39.20%	総務	
	岐阜県市町村職員退職手当組合	みなし連結		
地 方 公 社 ・ 第 三 セ ク タ ー 等	可児市土地開発公社	100.00%	総務	
	(公財)可児市文化芸術振興財団	100.00%	教育	
	(一般財)可児市公共施設振興公社	100.00%	産業振興	
	(公財)可児市体育連盟	100.00%	教育	

【会計基準】

地方公共団体及び連結対象団体は、それぞれ独自の会計基準が定められているため、連結に際しては会計基準の統一は行わず、各々の既存の財務書類を基礎にしています。

①その他の公営事業会計、一部事務組合（中濃地域農業共済組合除く）

普通会計と同様に「決算統計」及び「歳入歳出決算書」を活用して作成しました。

②公営企業会計、一部事務組合のうち中濃地域農業共済事務組合

地方公営企業法施行規則等に基づいて作成した「貸借対照表等」を活用して作成しました。

③地方公社、第三セクター等

土地開発公社経理基準要綱、公益法人会計基準に基づいて作成し、市議会への報告がなされている「貸借対照表等」を活用して作成しました。

【減価償却方法】

①その他の公営事業会計、一部事務組合（中濃地域農業共済組合除く）

普通会計と同様に、総務省の「新地方公会計制度実務研究会報告書」で示された耐用年数に基づく定額法によります。

②公営企業会計、一部事務組合のうち中濃地域農業共済事務組合

地方公営企業法施行規則による耐用年数等に基づく定率法によります。（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物については定額法による）

③地方公社、第三セクター等

減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）の規定に基づく定額法によります。

【退職手当引当金】

①公営企業会計、その他の公営事業会計、一部事務組合

普通会計と同様に、全職員が年度末に全て自己都合により退職したと仮定した場合に必要な退職手当支給額を計上しています。（公営企業会計、その他の公営事業会計は普通会計に計上）

②地方公社、第三セクター等

それぞれの貸借対照表に計上している額を計上しています。

【連結内部の相殺消去】

連結財務書類は、連結対象団体を一つの行政サービス実施主体とみなして作成されているため、連結対象となる会計・団体・法人間で取引や出資等が行われている場合は、原則として相殺消去を行っています。

また、普通会計において出納整理期間が存在しない連結対象団体へ出納整理期間中に現金の受払い等がなされた場合は、その連結対象団体においても、これに対応する現金の受払い等が当該年度中末に終了したものとして調整しています。

(2) 連結貸借対照表

① 連結貸借対照表

連結貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位:千円)

借	方	貸	方
[資産の部]		[負債の部]	
1	公共資産	1	固定負債
(1)	有形固定資産	(1)	地方公共団体
①	生活インフラ・国土保全	①	普通会計地方債
	121,097,587		15,230,791
②	教育	②	公営事業地方債
	56,575,316		23,279,859
③	福祉		地方公共団体計
	3,119,206		38,510,650
④	環境衛生	(2)	関係団体
	22,961,208	①	一部事務組合・広域連合地方債
⑤	産業振興		618,031
	3,634,277	②	地方三公社長期借入金
⑥	消防		0
	3,102,944	③	第三セクター等長期借入金
⑦	総務		0
	5,448,040		関係団体計
⑧	収益事業		618,031
	0	(3)	長期未払金
⑨	その他		443,291
	0	(4)	引当金
	有形固定資産合計		5,653,420
	215,938,578		(うち退職手当等引当金)
(2)	無形固定資産		5,584,962
	0		(うちその他の引当金)
(3)	売却可能資産		68,458
	259,485	(5)	その他
	公共資産合計		0
	216,198,063		固定負債合計
			45,225,392
2	投資等	2	流動負債
(1)	投資及び出資金	(1)	翌年度償還予定額
	946,324	①	地方公共団体
(2)	貸付金		3,580,945
	0	②	関係団体
(3)	基金等		199,204
	11,611,829		翌年度償還予定額計
(4)	長期延滞債権		3,780,149
	1,258,693	(2)	短期借入金(翌年度繰上充用金を含む)
(5)	その他		0
	0	(3)	未払金
(6)	回収不能見込額		546,393
	△ 530,043	(4)	翌年度支払予定退職手当
	投資等合計		0
	13,286,803	(5)	賞与引当金
			290,314
3	流動資産	(6)	その他
(1)	資金		167,612
	13,108,290		流動負債合計
(2)	未収金		4,784,468
	391,116		負債合計
(3)	販売用不動産		50,009,860
	0		[純資産の部]
(4)	その他	1	公共資産等整備国庫補助金等
	253,310		24,390,295
(5)	回収不能見込額	2	公共資産等整備一般財源等
	△ 69,470		161,866,910
	流動資産合計	3	他団体及び民間出資分
	13,683,246		0
4	繰延勘定	4	その他一般財源等
	0		1,903,524
	資産合計	5	資産評価差額
	243,168,112		4,997,523
			純資産合計
			193,158,252
			負債及び純資産合計
			243,168,112

②連結貸借対照表の概要

1) 有形固定資産の連単比較、行政目的別割合

(単位：千円)

平成25年度	連 結		普通会計		連単倍率 (倍)
	総 額	構成比	総 額	構成比	
生活インフラ・国土保全	121,097,587	56.1%	83,944,228	55.1%	1.44
教育	56,575,316	26.2%	56,426,531	37.1%	1.00
福祉	3,119,206	1.5%	2,952,019	1.9%	1.06
環境衛生	22,961,208	10.6%	482,806	0.3%	47.56
産業振興	3,634,277	1.7%	894,010	0.6%	4.07
消防	3,102,944	1.4%	2,066,579	1.4%	1.50
総務	5,448,040	2.5%	5,435,266	3.6%	1.00
合 計	215,938,578	100.0%	152,201,439	100.0%	1.42

連結有形固定資産は、普通会計の1.42倍となります。なお、連結による主な増加は以下のとおりです。

- ・生活インフラ・国土保全

公共下水道事業 33,557,505千円、特定環境保全公共下水道事業 2,974,127千円

- ・環境衛生

水道事業 17,917,882千円、可茂衛生施設利用組合4,560,520千円

- ・産業振興

農業集落排水事業 2,490,695千円

- ・消防

可茂消防事務組合1,036,365千円

有形固定資産の行政目的別割合は、生活インフラ・国土保全、教育で8割以上を占めています。道路、下水道などのインフラ整備や学校、公民館、文化創造センターなどの教育施設整備を進めてきたことがわかります。

2) 貸借対照表の連単比較

(単位：千円)

平成25年度	連 結		普通会計		連単倍率 (倍)
	総 額	構成比	総 額	構成比	
公共資産	216,198,063	88.9	152,424,202	89.0	1.42
投資等	13,286,803	5.5	10,015,213	5.9	1.33
流動資産	13,683,246	5.6	8,786,507	5.1	1.56
資産合計	243,168,112	100.0	171,225,922	100.0	1.42
固定負債	45,225,392	18.6	20,365,725	11.9	2.22
流動負債	4,784,468	2.0	2,196,480	1.3	2.18
負債合計	50,009,860	20.6	22,562,205	13.2	2.22
純資産	193,158,252	79.4	148,663,717	86.8	1.30
負債・純資産合計	243,168,112	100.0	171,225,922	100.0	1.42

【資産の部】

連結資産合計は、普通会計の1.42倍となります。

資産の大部分を占める有形固定資産は、前記1)のとおりとなります。

投資等のうち、連結による主な増加は以下のとおりです。

- ・投資及び出資金

水道事業 799,880千円

※連結している土地開発公社や法人への出資 225,600千円を内部相殺しています。

- ・基金等

市の特別会計504,803千円、一部事務組合 1,397,550千円

- ・長期延滞債権

国民健康保険事業（事業勘定）[保険税]649,587千円

【負債の部】

連結負債合計は、普通会計の2.22倍となります。なお、連結による主な増加は以下のとおりです。

- ・地方債（固定負債）

市の特別会計 22,714,975千円、一部事務組合 618,031千円

※普通会計15,230,791千円

【純資産の部】

連結純資産合計は、普通会計の1.30倍となります。

資産と比べて連単倍率が低くなっているのは、普通会計と比較して負債の割合が増えていることに伴い、資産に対する純資産の構成比が低くなっていることによります。

3) 貸借対照表の経年比較

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度	前年比
公共資産	216,198,063	218,281,553	99.0%
投資等	13,286,803	12,215,383	108.8%
流動資産	13,683,246	13,068,667	104.7%
資産合計	243,168,112	243,565,603	99.8%
固定負債	45,225,392	47,217,107	95.8%
流動負債	4,784,468	4,788,805	99.9%
負債合計	50,009,860	52,005,912	96.2%
純資産	193,158,252	191,559,691	100.8%
負債・純資産合計	243,168,112	243,565,603	99.8%

・公共資産は2,083,490千円の減額になります。主な増減要因は、次のような連結団体等の減価償却によるものです。水道事業627,964千円の減、公共下水道事業951,433千円の減、可茂衛生施設利用組合395,340千円の減。

・投資等は1,071,420千円の増額になります。主な増減要因は、積立による普通会計でその他特定目的基金の1,011,710千円増額によるものです。

・流動資産は614,579千円の増額になります。主な増減要因は、普通会計の財政調整基金が133,292千円の増額、水道事業で事業収益等による資金の246,056千円増額によるものです。

・負債は1,996,052千円の減額になります。主な増減要因は、連結ベースでの地方債残高の1,752,952千円の減額によるものです。

<連結ベースでの地方債残高>

(単位：千円)

	平成25年度末 地方債残高	平成24年度末 地方債残高
普通会計	17,118,327	17,181,934
水道事業	653,735	※736,868
公共下水道事業	22,175,289	23,455,695
特定環境保全公共下水道事業	1,519,320	1,644,943
農業集落排水事業	713,775	785,757
可茂衛生施設利用組合	399,053	685,513
可茂消防事務組合	325,676	165,318
可児市・御嵩町中学校組合	3,655	5,754
合 計	42,908,830	44,661,782

※簡易水道事業分を含む

公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業の下水道債を活用した地方債残高は24,408,384千円と多いことがわかります。下水道事業（3事業）は普通会計のおよそ1.43倍の負債が残っています。これは、市が下水道整備を積極的に進めてきたことや地方債の償還年数が普通会計より長いことが要因です。

下水道事業は、将来の下水道使用料収入で資金回収することを前提に地方債を活用するものですが、負債は将来世代に負担を残すものになるので、大きな負担をかけすぎないように下水道事業経営の健全化を目指す必要があります。

4) 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産による形成割合を見ることにより、これまでの世代によって既に負担された割合を把握することができます。

また、地方債に着目することにより、これから返済しなければならない、将来世代の負担割合を見ることができます。

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度
公共資産合計(a)	216,198,063	218,281,553
純資産合計(b)	193,158,252	191,559,691
地方債残高(c)	42,908,830	44,661,782
これまでの世代負担比率(b/a)	89.3%	87.8%
将来世代負担比率(c/a)	19.8%	20.5%

これまでの世代負担比率は89.3% (普通会計97.5%)、将来世代負担比率は19.8% (普通会計11.2%)となります。普通会計と比較して、地方債残高の割合が増えているため、将来世代負担率は高くなっています。

昨年度と比較して、これまでの世代負担比率は1.5ポイント増加、将来世代負担比率は0.7ポイント減少しています。

(3) 連結行政コスト計算書

① 連結行政コスト計算書

連結行政コスト計算書

(自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日)

【経常行政コスト】		(単位:千円)											一般財源 振替額
	総額	(構成比率)	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能 見込計上額	その他 行政コスト
1	(1)人件費	4,592,971	10.6%	395,935	705,377	680,718	309,670	401,093	591,708	1,280,613	227,857		0
	(2)退職手当等引当金繰入等	△ 195,561	-0.5%	△ 25,291	△ 38,859	△ 24,199	△ 13,485	△ 14,750	16,371	△ 91,411	△ 3,937		0
	(3)賞与引当金繰入額	289,280	0.7%	29,595	35,060	46,786	20,002	24,788	37,627	79,471	15,951		0
	小計	4,686,690	10.8%	400,239	701,578	703,305	316,187	411,131	645,706	1,268,673	239,871		0
	(1)物件費	7,224,320	16.7%	510,573	2,133,152	809,204	2,938,899	△ 8,245	114,165	720,431	8,141		0
	(2)維持補修費	326,210	0.8%	95,934	48,020	4,065	164,793	6,958	2,797	3,643	0		
	(3)減価償却費	5,696,291	13.1%	2,839,595	1,290,145	80,516	1,025,405	161,836	137,658	151,336	0		
	小計	13,206,821	30.6%	3,446,102	3,441,317	883,785	4,127,097	160,349	254,620	875,410	8,141	0	0
	(1)社会保障給付	17,695,435	40.9%		31,157	17,660,561	3,717						
	(2)補助金等	5,336,230	12.3%	515,816	286,729	3,924,961	△ 2,991	205,382	29,739	371,379	5,215		0
	(3)他会計等への支出額	591,157	1.4%	0	0	591,157	0	0	0	0	0		0
	(4)他団体への 公共施設整備補助金等	484,399	1.1%	210,137	0	166,253	71,000	12,497	0	24,512	0		0
	小計	24,107,221	55.7%	725,953	317,886	22,342,932	71,726	217,879	29,739	395,891	5,215	832,075	0
	(1)支払利息	832,075	1.9%									126,802	
	(2)回収不能見込計上額	126,802	0.3%										
	(3)その他行政コスト	308,741	0.7%	0	1,725	145,140	8,475	3,848	0	149,553	0		0
	小計	1,267,618	2.9%	0	1,725	145,140	8,475	3,848	0	149,553	0	832,075	126,802
	経常行政コスト a	43,268,350		4,572,294	4,462,506	24,085,162	4,523,485	793,207	930,065	2,689,527	253,227	832,075	126,802
	(構成比率)		10.6%	10.3%	55.7%	10.5%	1.8%	2.1%	6.2%	0.6%	1.9%	0.3%	0.0%
【経常収益】													
1	使用料・手数料	714,413		66,463	88,477	94,170	222,016	32,927	2,320	50,540	0	0	157,500
2	分担金・負担金・寄附金	6,642,807		50,866	15,277	6,482,674	62,454	5,706	200	10,392	0	0	15,238
3	保険	5,007,774				5,007,774							
4	事業収益	3,689,990		1,378,668	62,768	25,096	1,981,312	92,544	0	149,602	0	0	0
5	その他特定行政サービス収入	198,384		13,538	5,837	46,655	123,353	3,887	0	114	0	0	0
6	他会計補助金等	55,773		△ 550,589	55,773	0	0	0	0	0	0	550,589	0
	経常収益 b	16,309,141		958,946	228,132	11,656,369	2,394,135	135,064	2,520	210,648	0	550,589	172,738
	b/a	37.0%		21.0%	5.1%	48.4%	52.9%	17.0%	0.3%	7.8%	0.0%	66.2%	0.0%
	(差引) 経常行政コスト a-b	26,959,209		3,613,348	4,234,374	12,428,793	2,129,350	658,143	927,545	2,478,879	253,227	281,486	126,802
													△ 172,738

②連結行政コスト計算書の概要

1) 行政コスト計算書の連単比較

(単位：千円)

平成24年度	連 結		普通会計		連単倍率 (倍)
	総 額	構成比	総 額	構成比	
(1)人にかかるコスト	4,686,690	10.8%	3,229,037	13.1%	1.45
(2)物にかかるコスト	13,206,821	30.6%	8,109,799	32.9%	1.63
(3)移転支的コスト	24,107,221	55.7%	13,050,868	53.0%	1.85
(4)その他のコスト	1,267,618	2.9%	251,914	1.0%	5.03
経常行政コスト	43,268,350	100.0%	24,641,618	100.0%	1.76
経常収益	16,309,141		878,555		18.56
純経常行政コスト	26,959,209		23,763,063		1.13

経常行政コストの項目

- (1)人にかかるコスト ……人件費、退職手当引当金繰入等、賞与引当金繰入等
- (2)物にかかるコスト ……物件費、維持補修費、減価償却費
- (3)移転支的コスト……社会保障給付、補助金等、他会計・他団体への支出額
- (4)その他のコスト ……支払利息、回収不能見込計上額、その他行政コスト

【経常行政コスト】

経常行政コストは、普通会計の1.76倍となります。

人にかかるコストの連結による主な増加は以下のとおりです。

可茂消防事務組合 626,770千円、(公財)文化芸術振興財団 164,531千円、(一般財)公共施設振興公社 217,934千円

物にかかるコストの連結による主な増加は以下のとおりです。なお、物にかかるコストは、有形固定資産が多い会計・団体ほど維持補修費や減価償却費がかかることとなります。

水道事業 2,020,308千円、公共下水道事業 1,147,517千円、可茂衛生施設利用組合 1,314,874千円

移転支的コストの連結による主な増加は以下のとおりです。

・社会保障給付

国民健康保険事業(事業勘定) 7,194,587千円、介護保険事業(保険事業勘定) 5,066,095千円

・補助金等

国民健康保険事業(事業勘定) 2,903,897千円、後期高齢者医療事業 779,608千円、公共下水道事業 465,937千円

※一部事務組合への負担金、財団法人への補助金は内部相殺(△2,980,247千円)

・他会計等への支出額については、平成25年度に連結しなかった後期高齢者医療広域連合に対する支出額を除き、全て連結対象会計への支出であるため内部相殺しています。

その他のコストの連結による主な増加は以下のとおりです。

- ・支払利息

公共下水道事業 505,130千円

- ・その他の行政コスト

国民健康保険事業勘定 110,992千円、可児市土地開発公社 149,553千円

【経常収益】

経常収益は、普通会計では市税などの一般財源は経常収益に含めていませんが、連結対象になる会計・団体・法人の収入は、実施する事業に対する受益者負担であると考えられるため、国県補助金等を除き、経常収益として計上しています。

2) 行政コスト計算書の行政目的別割合

(単位：千円)

平成25年度	連 結		普通会計		連単倍率 (倍)
	総 額	構成比	総 額	構成比	
生活インフラ・国土保全	4,572,294	10.6%	4,121,694	16.7%	1.11
教育	4,462,506	10.3%	4,318,434	17.5%	1.03
福祉	24,085,162	55.7%	8,918,577	36.2%	2.70
環境衛生	4,523,485	10.5%	2,483,883	10.1%	1.82
産業振興	793,207	1.8%	687,805	2.8%	1.15
消防	930,065	2.1%	1,169,584	4.8%	0.80
総務	2,689,527	6.2%	2,436,670	9.9%	1.10
議会	253,227	0.6%	253,057	1.0%	1.00
支払利息	832,075	1.9%	215,706	0.9%	3.86
回収不能見込計上額	126,802	0.3%	36,208	0.1%	3.50
その他行政コスト		0.0%	0	0.0%	—
経常行政コスト	43,268,350	100.0%	24,641,618	100.0%	1.76

行政目的別に割合を見ると、福祉にかかるコストが構成比55.7%（普通会計36.2%）を占めています。資産形成に依らない行政サービスは、国民健康保険や介護保険などの医療給付やこども、高齢者、障がい者、生活保護者への給付サービスなどを行う福祉分野が大きな割合を占めています。

3) 行政コスト計算書の経年比較

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度	前年比
(1)人にかかるコスト	4,686,690	4,761,361	98.4%
(2)物にかかるコスト	13,206,821	7,416,498	178.1%
(3)移転支出的なコスト	24,107,221	23,284,569	103.5%
(4)その他のコスト	1,267,618	1,301,793	97.4%
経常行政コスト	43,268,350	36,764,221	117.7%
経常収益	16,309,141	15,736,068	103.6%
純経常行政コスト	26,959,209	21,028,153	128.2%

・人にかかるコストは74,671千円の減額になります。主な増減要因は、人件費の56,470千円減額によるものです。

・物にかかるコストは5,790,323千円の増額になります。主な増減要因は、減価償却費が5,665,224千円増額していることによるものです。これは普通会計の減価償却費の増額が主な要因です。

・移転支的コストは822,652千円の増額になります。主な増減要因は次のような社会保障給付の増額によるものです。

国民健康保険事業（事業勘定）：医療給付費233,197千円の増額

介護保険（保険事業勘定）：介護給付費の増274,694千円の増額

・その他のコストは34,175千円の減額となります。主な増減要因は、支払利息の68,068千円減額によるものです。

・経常収益は573,073千円の増額となります。主な増減要因は、以下のとおりです。

①分担金・負担金・寄附金

国民健康保険事業（事業勘定）：前期高齢者交付金等362,882千円の増額

②保険料

介護保険（事業勘定）：介護保険料87,205千円の増額

(4) 連結純資産変動計算書

① 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書

〔 自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	他団体及び 民間出資分	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	191,559,691	24,072,878	161,666,968	0	828,076	4,991,769
純経常行政コスト	△ 26,959,209				△ 26,959,209	
一般財源						
地方税	13,806,757				13,806,757	
地方交付税	2,912,984				2,912,984	
その他行政コスト充当財源	2,442,104				2,442,104	
補助金等受入	9,834,427	1,082,157			8,752,270	
臨時損益						
災害復旧事業費	0				0	
公共資産除売却損益	△ 89,602				△ 89,602	
投資損失	△ 119				△ 119	
収益事業純損失	0				0	
減損損失	0				0	
科目振替						
公共資産整備への財源投入			1,900,833		△ 1,900,833	
公共資産処分による財源増		△ 10,400	△ 420,170		430,570	0
貸付金・出資金等への財源投入		0	1,563,509		△ 1,563,509	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 608,674		608,674	0
減価償却による財源増		△ 763,890	△ 5,000,243		5,648,146	115,987
地方債償還等に伴う財源振替			2,885,857		△ 2,885,857	0
出資の受入・新規設立	0			0	0	
資産評価替えによる変動額	△ 124,453					△ 124,453
無償受贈資産受入	14,220					14,220
その他	△ 268,836	7,633	△ 145,938	0	△ 130,531	
経費負担割合に伴う差額	30,288	1,917	24,768	0	3,603	0
新規連結に伴う純資産の増加額	0	0	0	0	0	0
期末純資産残高	193,158,252	24,390,295	161,866,910	0	1,903,524	4,997,523

②連結純資産変動計算書の概要

1) 純資産変動計算書の連単比較

(単位：千円)

平成25年度	連 結	普通会計	連単倍率 (倍)
期首純資産残高 A	191,559,691	147,921,781	1.30
純経常行政コスト(a)	△26,959,209	△23,763,063	1.13
一般財源(b)	19,161,845	19,106,593	1.00
補助金等受入(c)	9,834,427	5,579,426	1.76
臨時損益(d)	△89,721	△61,069	1.47
資産評価替えによる変動額(e)	△124,453	△119,951	1.04
無償受贈資産受入(f)	14,220	0	—
その他(g)	△268,836	0	—
経費負担割合変更に伴う差額(h)	30,288	0	—
新規連結に伴う純資産増加額(i)	0	0	—
純資産の変動額 B(a～jの計)	1,598,561	741,936	2.15
期末純資産残高 A+B	193,158,252	148,663,717	1.30

純資産変動額がプラスの場合は、それだけ純資産が増加したことになります。

純経常行政コストは、普通会計で市税や交付金などの一般財源を経常収益に計上していないため大幅なコスト超過になりますが、それでも純資産変動額がプラスになるのは一般財源及び補助金等受入においてコスト超過分を上回る額を調達していることとなります。

2) 純資産変動計算書の経年比較

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度	前年比
期首純資産残高 A	191,559,691	199,068,139	96.2%
純経常行政コスト(a)	△26,959,209	△21,028,153	128.2%
一般財源(b)	19,161,845	19,518,649	98.2%
補助金等受入(c)	9,834,427	8,862,496	111.0%
臨時損益(d)	△89,721	114,627	—
資産評価替えによる変動額(e)	△124,453	△15,060,214	0.8%
無償受贈資産受入(f)	14,220	13,749	103.4%
その他(g)	△268,836	0	—
経費負担割合変更に伴う差額(h)	30,288	70,398	43.0%
新規連結に伴う純資産増加額(i)	0	0	—
純資産の変動額 B(a～jの計)	1,598,561	△7,508,448	—
期末純資産残高 A+B	193,158,252	191,559,691	100.8%

・純資産の変動額は9,107,009千円の増額となります。主な増減要因は、平成24年度行った普通会計での資産評価の見直しに伴う調整による、減価償却費の大幅な減額がなくなったことによります。

・臨時損益は204,348千円の減額となります。主な増減要因は、公共資産の所売却損益の297,053千円減額によるものです。

(5) 連結資金収支計算書

① 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書

〔自平成25年4月1日
至平成26年3月31日〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	5,272,161
物件費	6,996,815
社会保障給付	17,695,436
補助金等	5,337,037
支払利息	832,075
その他支出	1,081,425
支出合計	37,214,949
地方税	13,795,109
地方交付税	2,912,984
国県補助金等	8,591,757
使用料・手数料	728,147
分担金・負担金・寄附金	6,536,065
保険料	4,974,830
事業収入	3,517,505
諸収入	971,204
地方債発行額	1,105,700
長期借入金借入額	0
短期借入金増加額	0
基金取崩額	213,626
その他収入	1,636,524
収入合計	44,983,451
経常的収支額	7,768,502
2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	3,674,180
公共資産整備補助金等支出	471,902
地方独立行政法人公共資産整備支出	0
一部事務組合・広域連合公共資産整備支出	542,715
地方三公社公共資産整備支出	0
第三セクター等公共資産整備支出	8,175
支出合計	4,696,972
国県補助金等	1,283,403
地方債発行額	1,111,812
長期借入金借入額	0
基金取崩額	0
その他収入	87,107
収入合計	2,482,322
公共資産整備収支額	△ 2,214,650
3 投資・財務的収支の部	
投資及びひ出資金	200,053
貸付金	65,800
基金積立額	1,139,956
定額運用基金への繰出支出	620
地方債償還額	3,973,896
長期借入金返済額	0
短期借入金減少額	0
収益事業純支出	43,867
その他支出	14
支出合計	5,424,206
国県補助金等	0
貸付金回収額	65,800
基金取崩額	16
地方債発行額	0
長期借入金借入額	0
収益事業純収入	0
公共資産等売却収入	202,598
その他収入	208,004
収入合計	476,418
投資・財務的収支額	△ 4,947,788
翌年度繰上充用金増減額	0
当年度資金増減額	606,064
期首資金残高	12,501,285
経費負担割合変更に伴う差額	941
その他	0
期末資金残高	13,108,290

②連結資金収支計算書の概要

1) 資金収支計算書の連単比較

(単位：千円)

平成25年度	連 結	普通会計	連単倍率 (倍)
1 経常的収支	7,768,502	5,858,163	1.33
経常的支出(a)	37,214,949	19,811,650	1.88
経常的収入(b)	44,983,451	25,669,813	1.75
2 公共資産整備収支	△2,214,650	△1,475,874	1.50
公共資産整備支出(c)	4,696,972	3,424,449	1.37
公共資産整備収入(d)	2,482,322	1,948,575	1.27
3 投資・財務的収支	△4,947,788	△4,464,392	1.11
投資・財務的支出(e)	5,424,206	4,731,814	1.15
投資・財務的収入(f)	476,418	267,422	1.78
翌年度繰上充用金増減額(g)	0	0	—
当期収支 A	606,064	△82,103	—
支出合計 (a)+(c)+(e)	47,336,127	27,967,913	1.69
収入合計 (b)+(d)+(f)+(g)	47,942,191	27,885,810	1.72
期首資金残高(前年度繰越金) B	12,501,285	1,968,566	6.35
経費負担割合変更に伴う差額 C	941	—	—
新規連結に伴う純資産増加額 D	0	△1,314	—
期末資金残高 A+B+C+D	13,108,290	1,885,149	6.95

※連結ベースでの普通会計資金収支計算書は、財政調整基金、減債基金を資金に含めています。

経常的収支の連結による主な増加は以下のとおりです。

支出：国民健康保険事業[保険事業勘定] 10,439,461千円

 介護保険事業[事業勘定] 5,355,145千円

収入：国民健康保険事業[保険事業勘定] 10,619,765千円

 介護保険[保健事業勘定] 5,425,859千円、公共下水道事業 2,259,868千円

公共資産整備収支の連結による主な増加は以下のとおりです。

支出：水道事業 601,747千円、公共下水道事業 271,096千円

収入：公共下水道事業 271,096千円

投資・財務的収支の連結による主な増加は以下のとおりです。

支出：公共下水道事業 1,466,206千円

収入：土地開発公社 149,553千円

その結果、当期資金は607,005千円の増額で13,108,290千円となります。

公共資産整備収支の不足額(2,214,650千円)及び投資・財務的支出の不足額(4,947,788千円)は、経常的収支の余剰額(7,768,502千円)で補てんしています。

2) 資金収支計算書の経年比較

(単位：千円)

	平成25年度	平成24年度	前年比
1 経常的収支	7,768,502	7,687,815	101.0%
経常的支出(a)	37,214,949	36,732,942	101.3%
経常的収入(b)	44,983,451	44,420,757	101.3%
2 公共資産整備収支	△2,214,650	△1,804,453	122.7%
公共資産整備支出(c)	4,696,972	3,723,631	126.1%
公共資産整備収入(d)	2,482,322	1,919,178	129.3%
3 投資・財務的収支	△4,947,788	△4,092,935	120.9%
投資・財務的支出(e)	5,424,206	4,846,006	111.9%
投資・財務的収入(f)	476,418	753,071	63.3%
翌年度繰上充用金増減額(g)	0	0	—
当期収支 A	606,064	1,790,427	33.9%
支出合計 (a)+(c)+(e)	47,336,127	45,302,579	104.5%
収入合計 (b)+(d)+(f)+(g)	47,942,191	47,093,006	101.8%
期首資金残高(前年度繰越金) B	12,501,285	10,706,062	116.8%
経費負担割合変更に伴う差額 C	941	4,796	19.6%
新規連結に伴う純資産増加額 D	0	0	—
期末資金残高 A+B+C+D	13,108,290	12,501,285	104.9%

・経常的収支は、80,687千円の増額になります。

支出の主な増減要因(+482,007千円)は、社会保障給付費が国民健康保険事業(事業勘定)で316,488千円の増額、介護保険(保険事業勘定)で270,954千円増額したことにあります。

収入の主な増減要因(+562,694千円)は、普通会計の国庫補助金等が421,994千円の増額、国民健康保険事業(事業勘定)の前期高齢者交付金が362,882千円増額したものの、普通会計の地方交付税が133,693千円減額したことによるものです。

・公共資産整備収支は、410,197千円の減額になります。

支出の主な増減要因(+973,341千円)は普通会計の普通建設事業費が856,871千円増額したことにあります。

収入の主な増減要因(+563,144千円)は普通会計の国庫補助金等が408,840千円増額、地方債発行額が239,900千円増額したことにあります。

・投資・財務的収支は、854,853千円の減額になります。

支出の主な増減要因(+578,200千円)は、普通会計の基金積立金が569,132千円増額したことにあります。

収入の主な増減要因(△276,653千円)は、普通会計の公共資産等売却収入が280,689千円減額したことにあります。

作成 : 企画經濟部財政課財政係
